



大正
年
正月
解

大正
20



20

1864
2132
20

15

嬉々々々



郷食庭文庫

和唐珍解序

素聞崎乃敏華之地

景勝之鄉也就中尤

山寄合之間名妓多

ヤマヨリアヘマシラハヨシギヨラウオホ

少而粧扮好不容貨

比他三估一估也我

們久思一遊焉万里

行路無奈今般唐來

三和作和唐珍鮮戲

文是私的大造化閱

一閱歡一歡未樂館


主人序



序

夫支那の地まろりハ漢^クハ游^{ロウ}女^ドありと云ふ
吾^エの^グの^ク貝^{カイ}多^タ羅^ラハ街^{ケン}賣^{マイ}女^メ色^{シキ}と^ト叫^{ケイ}子の^コ先^{セン}人^{ニン}
吾^エの^グ田^{テン}の^ノ二^ニぢ^ヂう^ウハ床^{トコ}柱^{チウ}ありより^{ヨリ}あ^アは^ハ茶^{チャ}
海^{カイ}系^{ケイ}れ^レを^ヲ余^ヨふ^フ萌^{モウ}美^{メイ}さ^サら^ラぬ^ヌ切^キと^トい^イと^ト出^デ合^カ
の^ノり^リら^ラ穴^{アナ}み^ミえ^エや^ヤと^ト互^ニ林^{リン}七^{シチ}代^{ダイ}五^ゴ代^{ダイ}系^{ケイ}地^チ々^々

を^ヲり^リを^ヲか^カを^ヲあ^アへ^ヘて^テ人^{ニン}は^ハ代^{ダイ}々^々あり^リて^テ伊^イ勢^{セイ}
源^{ゲン}氏^シの^ノ物^{モノ}種^{シュウ}々^々指^{サシ}切^キ整^{セイ}切^キの^ノま^マて^テと^トち^チく^ク二^ニ条^{ジョウ}
后^{コウ}子^シ學^{ガク}小^{コウ}お^オい^イら^ラ人^{ニン}の^ノ意^イ々^々代^{ダイ}々^々を^ヲは^ハ今^{イマ}や^ヤ
ま^マれ^レ女^メの^ノま^マは^ハの^ノま^マり^リと^トわ^ワら^ラせ^セも^モ時^{トキ}の^ノ
衣^イ堂^{ドウ}を^ヲき^キを^ヲく^ク大^{ダイ}坂^カれ^レ揚^{アゲ}屋^ヤ々^々と^ト自^ジ由^{ユウ}
自^ジ在^{ザイ}の^ノ樂^{ラク}と^トは^ハ時^{トキ}々^々あ^アひ^ヒく^ク和^ワ漢^{カン}の^ノ人^{ニン}は^ハ

大一者嗚りお月のまん丸山よびさ
 卯うまひの四角しやうかくな又字またじと唐来からい和わとらる中位ちゆうゐ
 形かたちあつあつ申まをる聲こゑのかきぬの外ほかあつあつと
 さりひらぬあつと輪まをとあつあつと大あつとハ性しやうあつ
 抽ひく我等われら語人ごじんまらりあのかつ
 四才山人 

和唐珍解

唐来参和著

雲想衣裳花想容うんそういせやうくわくをさうふくちやうとかひりと清平調ていへいぢゆうの詞乃美ことば
 花はな貌うしろとて不如くわら容人ようじん老としと不如いん花はな美みあれハ
 人人にんじんあれを美みれ如ごとも余よみあつぬ仇あひの浮うき名な
 をちがちが美みれ色いろの丸山角まるやまかくとれと和わつと
 困くまも又またまもかつとぬ患うれの道みち道みちと喇叭らふ
 咲さ噴ふん吹ふとつとせつとどめれの美み人じん語ご敏みんの

夕れ徒然不通綱法とも打違さくろかれ
くらくられ娼婦入りそ者中れ客からん

大明李踏天 李踏天 你們可回太公從者 領旨李

明朝早些來我在這裏等候快些太公不

不可路上住脚 通詞和田藤内 多勞多勞從

太公不 かとととくくろり 李 你們等一等從 有何

貴幹李 休要賭錢 藤 崑崙奴 有些事故

不要太 崑崙奴 領旨從 明日再來迎接く

くらくらんがう 藤 恙者ハ居らんくらくらひ共く

着者 ハイく どうはさぬどうかひさぬどう

後内さぬ田わんぢんとふまきよとんぞく

と花下りちるる李踏天ハ 李 沒規矩奴 藤 コレ

それとてんてらととらとく 恙ひ共さぬくそらうらとく 恙ひ共さぬく

まゝののぞく 愈の者人まのそのやうふまや

さういふらうとさう翻身ホシシ便拜ベニハととりひ

又撲地ボクチ拜下ハイカあざとりうとく天窓あまなと比ヒかり

あまも終ハくたれをがてんせぬよ若 ホニニとさう

でいざりいゆとさういふたきふふぶてり細法さいほう 李得テツ

罪我ツイ了我コウ我饒リヤウゴウ不得他ミヤウフツテツタ 崑苦哉クウサイ苦哉クウサイ 藤請ツイン

息怒スエツ他的ウタ不是フツ了スウ 李狡狴キヤウハツ的人テ下次シニヒヤウ再ツウ

須要スエ小心イマウ此スエ二スエ若スエ フアく二ウイ階ウイくウイ出ウイのウイがウイりウイたウイさ

終ツまマせセ 藤請ツイン上シヤ来ニライ坐ツチ 李樓中レウチウ有ユウ蜘蛛ツウ網コウ

藤悔クワイのノ業ノどドくクけケぐグいイあアいイうウとトおオらラまマあア

若ニきキふフまマしシいイあアらラげゲりリまマらラくク 皆さサふフ

いイまマりリたタらラんンまマせセ 藤崑崙クワンロン命メイ奴ヌ你ニ跟ケン著チャ

我クワイ来ライとトはハきキくク 福あアらラんンあアらラいイ 藤 李君キョウ且ツエ上シヤ面メン

坐ツチ了リヤウ 李怎ツエ心ニカニ敢カン若ニ今イマ晚エンハハ能ネくク そいイらラるル

とトりリいイまマしシ 李初ツチ相ソウ見ケン 藤始シくク 何のノさサ

とあらしや若^ハハイ号ありくさうはざり
 満ちてヤてもきうー^ヲ舞トすきめ入友
 きるよらーくはうけと^藤ツリヤアどみで
 もりまよりらと^たたぐるぐあらより
 わらくきくめらあ^ナ哥哥那
 藤^{コレ}おのりでもあひゲクつむくき
 裡^{リイキチ}公^{コウ}藤^{テン}有^{ユウ}此^{スレ}事^ズ情^ズ李^{ライ}公^{コウ}了^{リョウ}来^{ライ}
友内わらう久
かきおむくひ

度人の大明の李^リ踏^{トウ}天^{テン}とくみ金持でわらわ
 うこの女^メ昂^{オウ}の梅^{ウメ}檀^{タン}とわーてくめいそ
 らんゆめくもツレすり^若まうーらとみる
 こぶうーぬ^藤コレ^ヤおき^ガはつら^カあんか
 らんとおさうせん^ト合^カを^キむ^若コレ^ハあ^リが^ウ
 はざり満ちて^{シテ}あま^シく^ハぬ^ハの^ハけ^ルの^ぬり
 藤^新造^造さく^若よふはざりすす何るも

方すふありでいざりゆと藤三んのい

こぞでト夜内いれをさへある禿禿たををがんのりある友さんお出さん

り季 個裡来 藤 室くこひとさ禿ころちや

りや味がりらひ季 没有可怕的事 藤

マア 側へりてころや季 揪住他 禿 ヨ、あこ

マウ季 為甚太使不得フク 禿 アレば

ておらんなんーつらと顔とありさるき

季 休要囉數 禿 マウ うゑさんトクニ

季 休要跑脱 姐妓面前不可告知のほ

若ちくるにのぐりすー 藤 っらさん季

哥カウ契キツ一杯季 好ハ了リ友人ウ梅槽ウぞ

もよみ出さんした藤 きらひいりうさん

どね梅 ナニ持とうぞやア ぢせんせんれども

季 這筒杯兒奉献娘子トは不和漢かろうす

略り **李** 今日暴始相見新 モシ 主がなんとら

抄うせんとぞ **藤** を下めてお目ふかろう

とおいらへの挨拶さ若 **さ** ぞぞあかろのお

若さぬあいの **叮** 寧でいざうすす梅ころ

ちかろも何とぞお **慈** 子りろくあろくお

らん **な** へー **藤** せうろく **初** 接高風不

勝 **欣** 躍若蒙不鄙棄感謝不盡 **李** 這般

殷勤折殺俺也 **若** ちんごう度者とや **抄**

びろか **せ** ろく **か** ねろく **い** ざりま **李** 敢

問 **娘** 子尊名 **藤** 咲作 **梅** 檀 **李** 青春多 **少**

藤 **今** 年二 **八** **李** 衣裳齊整容貌 **嫵** 致生

得 **出** 塵 **藤** 當時名 **妓** 數一 **數** 二 **李** 琴 **麿**

得 **名** 妓 **真** 正多謝得 **緊** 若 **心** ながろ何系

とちとりんご **梅** せろ **藤** 壮客奉敬 **一** 杯

哩リイ梅ウメ 二葉フタエおめをまなふアイ李リ 満麗マンレイ

一イチ盃サイ藤フジ ちりかりはげとと新ニホせんてくあつ

ちの者モノ氣キの酒サケが強ツヨクふおざんとく人ヒト若ワカせん

比ヒ出デあつて候ウケ申マシた新ニホ禮レイの比ヒ宿ヤクさぬほどふ

かされま〜藤フジ 々々々切キ慶エイ子コうけ比ヒの奇キ合アイ

所ところへ印しるしののががせせくくいいくくよ梅ウメ 全ぜんあどもお出デ

なんせうぬ藤フジどんがんどんがんお〜んおん〜んん

中ナカ李リ 娘ニヤ子ウコ咲サキ桐キリ藤フジ者モノか〜女メ扇アヒへはけ

さ〜も何なにりぐ〜んんお〜んんたをこを

吾われとと梅ウメ ず〜あ〜んん〜んんか〜めと云いをん

とら藤フジ 吸スビ口クチと振ふるて舌シタと授ウケと〜ら梅ウメ

えつけをんせんく〜ううおざんと李リ 藤フジ内ナイ

哥哥カカ敬ケイ你ニ一イチ盃サイ藤フジど〜もは酒サケのちと其その口クチ

ど〜その子こアノ 供くわ部ぶ屋やへい〜く〜ろん

らふていふていふれども用が何のころて
あぬ入るにやうぞ^{あせ}流くうあふよよ^梅
たをこと^の言かん^一青^{アイ}藤^毛鹿^人
でもアリヤアも男がどううがうてこまよ
のぢやるれ^青よ^一あ^一ま^一ま^一ま^一藤^ハ
井^一う^一い^一ひ^一か^一らん^一か^一何^一色^一も^一ハ^一九^一年^一も
流^一く^一く^一う^一う^一く^一あ^一く^一ろ^一う^一が^一け^一む^一乃

如^ぢ印^ら賞^うの馬^まと^りハ^ッレ^おめ^んぶ^ふよ^う
う^あれ^も回^ま幸^せれ^ん云^く流^りと^まえ^んお^めん^も
鹿^か毛^まと^おむ^らか^らや^どの^久し^ん羽^は流^り
鹿^か乃^もあ^んん^あも^何く^ぐワ^らり^て書^きの^念
と^まの^うと^らめ^りの^びか^くく^くと^まり
ぢ^やア^流て^よ青^ぞめ^りり^まり^いせん^藤
ナ^ニく^くめ^くめ^くが^らの^あぢ^アノ^{せん}と^う

まゆ柳さんいよく何のらまをとせとりあん

とせ柳李酒壺酒壺藤在在ツライクわうをいあいらう

何のらしてあり錦州何てくえあん一新アレサ

だまらんく柳くあんとりやアアアふ藤ハテ

是年ハ張ぶらあれぬ人錦ホいあんにも

あつぬ事とつた。今夜ハよくまきん

とぬ藤サアアに居あ人錦わーやア

藤何れハせんどせした李端天とふ毛色

人さ錦へア、いひてモシ柳らつ子お目子

かり中志んした李言今日天色好錦

とあぞ是かろさつらくもは出あん

李阿阿酒醒了此二錦さやうさ青ホハ

孫別さんとりやアマアあんの事どく錦

あぞく藤柳もあまらうがてんがわらぬか

らだまうく笑てぬがらりハぢう
ひぶ錦ア笑あんーあのらうらガねこと
笑とかけいーう白ぢうやちからひ
あんとうあてげうやうにぞあぞは
おあんーとひーたうアくあひと
やうひあんをかうさやうさといひー
うが遠ひーたく藤ぶがらうらうら

さ梅折ーそぬーハあんといひあんーた
のうぢうあんさく藤せんさん人かこめ
子のうき笑とあけさ笑つけぬくぞ
福うふら能うきと何とらうら
どみぞは出あんーア、碎がさわさといひ
た極さあんのもりぞんねらうくノおりーん

三季 笑甚麼休要笑話我藤 休要

悪情ワサヤのコレも人ふりくハ移くがゆくよめくの

るかよゆのゆくけ毛びーがあつくふ

了李敢問カンウ笑甚シヤウ麼モウ藤ツ此ツ妓好キイ咲得サウ野ツ系キ李キ

新来的スインライ在個裡テウツァイ頑要ワウ則ツ箇ツ青ツ絲ツ列ツさん

家クとく何ナニとくニとくニ錦キンアイアイ善善者者はとと若若サアサアく

以酒イとのゆくハありまうた新シンヲヤヤり

いりゆゆくさあんーたぬく梅ウメそのゆ

み居るれいあんどぬく藤フジあらくれハ蝶テフ

蝶テフこれが蝶テフその次ツギのハ蛇ヘビ青アヲまをれくる

いせそりりゆぬく藤フジ何ナニあーらくお

了李硝子スヤウツツ透亮テウリヤウ了リヤウ好看ハウカン錦キンは酒とマア

春ハルあんさうりゆウ禿ツルモアノけるウ半ハン

めし共トモこころまよおのひまヒマ天井テンキウ

のゆもあーとまマくクみ移シくク青アヲナニを

かじしいせりやアめ家そと底こごりか李我喫ロウ

酒出ツユウ酒鐘ユウ藤フジ酒成のたまふらりうくを

出出や赤アイどまう入挿エ、この子もら

ちりやア一寸りうてさいせう 何だの李再サイ

赤赤アイト引知しよりらふとわ李最好ツイ且ハウツツ

請試ツクシ用一ヨシ盃ハ香氣キョウキ妙極ミョウキョク藤好フジコト了リヤウ青セイころん

坐咲談ツラ錦キンとんふらほまきらしく

青青バアク藤フジ笑ウタガハシとんどの青ホハ

トト妙ミョウ若ニヤウけ酒ケサウと女メ言コト尻シガのハびとヒとヒせうシに

此コノのノ者モノ人ヒトガガかカとトいイくク成ナリとトいイふフ事コトでデハハい

ざりザりリ備ビせセぬヌりリ新シンおオうウハハのノびビめメくクよヨ李リ相ソウ

火来ヒ藤フジそれソレ火ヒりリあアひヒとトよヨ赤セキアイアイ李リ火ヒ

火来ヒ藤フジそれソレ火ヒりリあアひヒとトよヨ赤セキアイアイ李リ火ヒ

火来ヒ藤フジそれソレ火ヒりリあアひヒとトよヨ赤セキアイアイ李リ火ヒ

此至ニア、ヲイフ拿来ヤウトウ不要多ヤウトウヒイレイヒイレイ錦ヲヤ

唐クでもあのりハ火いれとらひいとう縁縁

藤フジ何なに日ひ幸あつちれこときことふこととことまことさんこと子こ

いふのい若わかぞれれいいろろくく火ひとといいけけくくおおり

ふふ子こ統とととりりににききややてて縁縁梅うめアア、、ききままと

おぢくおぢあんあんををかかららめめららるるかかるるかかららままし

縁縁くくぬぬくく藤フジ十じゅう二にああのの唐たう人じんああどどふふたたいいしし

はドはめめててああささかからら名な異いのの先せんででワワクク

いいろろれれててももききくく縁縁李り俺おれ嘗かつ認にん得てつ那な

个こ娘にやう子し藤フジ錦きん辨べんさんさんおおめめくくささぶぶささいいとと云い

かかおおめめんんききららくくわわるる錦きんいいくく藤フジムむ、、ままささ

けけ中ちゆう儀ぎ茶ちや屋やつつれれくくいいろろくく時ときおおめめんんが

まませせふふわわささううくくままれれききだだららくく梅うめ十じゅうセ

ああららくくハハ初はつああんんせせんんへへ藤フジ鶴つるををめめとと

こふかろつて見つるつて知る拍子に

まがきのどろく處て替れくう面目

おづらて終終くぼくわうか中りさ

李キツフニリヤウハアクツサメ喫糞了新ヲヤラあやこふ

處でもほト事ど終く藤ひとりてま

出るおざうう日トるさ李ハアクツ

サメ那箇説我事也藤せん先列そバでりる

くつみののとりさめもゆゆてとめと

るりのぞ李ハアクサメ傷風不耐頑藤是

不好了ト羽織とわひて李多謝多謝リヤン量

尺正有了分寸不錯了真正相像了錦

ヲヤ羽織と着かん一たかさらハよくやく

さん子似くそ指かんを藤福とハ福輪リヤン王ガ

事う何れハお毛人ぞ李スヤ像不像比一

此者藤どあーたる今のあーとバケちりて

拵のぞ李娘子休西女客套藤モシ何さん

者とつん子とるなりと拵はのぞ移へ李

喫此酒麼藤他是淺量李愛的甚麼東

西藤最愛彈唱李藤哥彈絃藤請免錦

ふんどしと藤おれ子と味せんをひけと

よ新彈ふんー錦コレニ系とこのと味線

とがーや新サアひまふんー藤ぞあもひま

くひり移くくふぞとらぬグうと

うりそあふん。苦辞不脱李又来自負

拵モシりらとね唐の唄と譯てやメラセ

ふんー藤おりろく移へやりのとらふん

ふよあちゆうと

一更裡天。一更裡天。月照紗窓人也未

眠被襖兒寒凍得渾身上腫我的肝

我的心肝何處貪花撒下了我撒下了

我在花街上闖李越更感激錦 毛

我れどましまひり移梅つらそをかじ

のどんどめく李唱得妙端的是聲清韻

美字正腔真另外好聽藤夜人ひとり

わめふやうさ新それより目あけ淨溜

酒をかろてせうせあんー藤それでは

まゝのりが袂がまれぬくくしてれり

錦ソリヤアよふゆごんさア藤我んあう

がふまうふび中何れが淨溜酒そのど

びくく扇歌ふ壺してふさこそれてり

ふりてせうせう梅我れハ又らりち

でまけがまれんとあ人新あんでもア

かろくきろくせあん藤何ふとろくろ

ハ、めさひのうらひ 儀鏡の糸と 登り場を 子と ちやう李快此唱

来藤又洞子と 日月互明懸配 天豈偶然ハ

浮雲有覆失光年幼王母后堪憐似楚ハ

囚可傷馬永井右馬頭宜明領命囚監ハ

若モこもつささぬるかゆあさん

藤吳三桂う若さやうてはざり

ます季那箇来了藤吳三桂的季他也

来得好梅 是少義 ぶとの之味せんとり

ころげや兎 アイ錦ころちやアいつて

まのせ藤 ナセマア扱 びあせく錦 列ハ

三桂ハは ちんと李我 等兩人老早到這裏等

候先生先生部如何恁 地来遅了吳 三桂

飛也似奔將過來了越急越不明白 列

位ツ早サ至ウ等キ久ウ了リ恐ウ懼コ不フ過ツ悔フ今イ夜ノハシ終ル

かハもシんノ一ツたハ呉ト子ウ福ホ藤ホ那ナ麻マ坐ツ呉ト列レ位ト

在サ這イ裏ト我リ豈キ敢カ占チ上ニ坐ス青シ今ノ

夜ノハシもシんノ一ツたハ呉ト子ウ福ホ藤ホ那ナ麻マ坐ツ呉ト列レ位ト

のハ呉ト僑キ居ウ冷レ淡シ過シ日ツ如シ年ニ了リ青シ也レんデ

来ルもシんノ一ツたハのハ久ク大キもシんノ一ツたハのハ久ク大キもシんノ一ツたハ

くハいキもシんノ一ツたハのハ久ク大キもシんノ一ツたハのハ久ク大キもシんノ一ツたハ

生ス不レ淨シ浪ラ之チ徒ト不レ勝シ戀レ慕シ所ツ以テ特ニ地ニ走ル

將ツ過ル来ル青シソリヤア奇キ合カ所トのハもシんノ一ツたハ

曉ト得テ你ニ今ノ霄ノ因ニ有リ此レ障シ礙シ却シ来リ這レ裡ニ戲ス

弄ロ我ニ青シトリヤア奇キ合カ所トのハもシんノ一ツたハ

たハれモ也レ者トハシおシんノ一ツたハのハ久ク大キもシんノ一ツたハ

此レ難シ辨シ可ク否ク藤ト我ニ自ラ心ニ裏ニ曉レ得テ不レ今ノ夜ニ

差サ不レ多ク好シ了リ呉ト信シ不レ得テ若シ今ノ曉レハシもシんノ一ツたハ

こ我^ツ呉^ツ怎樣久不相見若^{ハイ}く^ウ後^ト

マア^ウて^マウ^ウは^セウ^テ新^ニ呉^ニこ

さん^ニ孫^ノの^ノ小人^ノ島^ノと^リウ^テお^出る^ん

一^ニたり^ん藤^ノ小人^ノ島^ノと^リ新^ニイ^ニ花^ト

箕^ノの^ノ引^ビ一^ニへ^ウウ^テお^出る^んか^シま^シ呉^ニ

一^ニ両^ノ日^ノ内^ノ拿^リ来^テ了^ル新^ニお^出る^んか^シま^シ呉^ニ

と^リお^出る^ん不^レ敢^テ説^ク謊^ヲ請^フ勿^ク生^シ疑^ハ兆^ハお^出る^んハ

小人^ノ島^ノも^も何^もし^らぬ^ハ長^ク持^テま^り

て^くよ^梅ナ^ヤ兆^言ひ^取て^おう^とび^ひり

何^レ政^ヤ何^レを^とり^おう^かし^ま呉^ニ少^シ

妓^是有^件要^相托^之事^藤是^をお^出る^んを^よ

お^出る^ん呉^ニ拿^テ茶^来青^お桑^とあ^げや

呉^温々^的好^不要^大熱^藤お^出る^んを^よ

と^よ兆^{アイ}ト^まり^おう^かし^ま呉^ニ内^にお^出る^ん

藤ツタ從家ツクシ嬢出デ甚シ麼マ 卍マン友トモるレけテらラとト

きキとト出デあアさサれレまマせセんンのノ藤ツタ 倭ヤマト新ニみミか

まマけケてテきキ 吳ウ常チヤウ常ヤウ壯チヤウ健ケン藤ツタおオかカらラもモはハ

うウとトきキ 卍マンハイハイ何ナニりリかカらラもモとトきキらラまマす

李リ要ヤウ與イ波ハ女メ々々陪ハイ話ワ青セイモモシシをヲ守シまマあアらラまマ

とトきキ 卍マンハイハイどドもモどドもモかカらラおオ目メとトうウけ

らラれレてテらラとトきキはハーー 免ウシ茶チヤとト 免ウシハイハイモモシ

とトきキ成ナらラらラとト出デ茶チヤとトおオてテめメらラはハーー

たタ藤ツタどドれレくク 家イヘ々々よヨとトきキ 卍マン出デ膳テンのノま

どドきキ 新ニイイ、、 卍マンらラらラのノあアりリぬヌどドれレらラ

てテせセらラほホらラとトきキあアらラまマハイハイ後ノチりリどドてテはハらラ

藤ツタ 吳ウ哥カ一イツ 盃ウヰ喫キツ得デ大ダイ醉ツイ也ヤ 好コウ 吳ウ宿ソク酒シュウ末マツ

醒セイ請テイ免メン請テイ免メン 李リ要ヤウ和ワ你ニ化カ拳ケン 吳ウ這チヤウ樣ヤウ事ジ

尤ユウ好コウ請テイ 李リ哥カ在ツクシ對ツクシ面メン坐ツクシ則ツクシ箇コ 免ウシおオらラハ

又よろうや **李** 走開去休要在個裏纏繞

青 コレかて葉のらうとあといさぐりやふ

李 一。五。十。四。七。無 **吳** 那裡了 **梅** モシうれ

をりりの日奪れと何まりちがひ移とや

おせんせんら **藤** せんらんをかくあさ

おさ **吳** 我不敢當 **李** 錯過了氣苦不迭

はあくさあまをらりく **若** ちと拵こと **藤** うれハ

あは 漏へさぐさアありめ **吳** 衆皆個裡来

若 ぞあも何もさー何げらおハもぞりませ

ね **李** 調理好甚 **藤** 把官

路當人情没什麼款待有罪有罪 **吳** 半

東感激 **藤** 李踏天葱菜楮兒怎麼様 **李**

是大明了 **藤** 料理がやとんくやめら

よ今つらてタア、ミニリヤウとふあら

てりよ日本をさるるのと同じひふり **若**

おれハ何んがさしにざりはさしませり

何も何だるおハにざりませぬがその牛

の何んけがぬ張をでざりはさしませり

せでハにざりませぬ **藤**りりさるはら終り

新一おさで **圓**牛兒煮了吃更妙燒的

滋味不好 **藤**失陪請飯 **李**要喫 **若** 鶉の

血のそのちよくにににざりはさしませり

ハ羊れ **池**ととざりませ **吳**先生飯桶

刺此 **二藤** 又来弄舌 **新** モシ口のさしませ

はがつりりやさしませ **李** 講甚麻么 **新** イ

エサ 窓子まらんまら **李** 越鏢越生我也厭了

這 **個** **髭** **胡** **髮** **藤** てめんが何ぞとさしませ

かゝ **髭** のさしませりてめんが何ぞとさしませ **李**

たトある **李** 先生 是 什麼了 **吳** 我也 不知

李 藤内 是 什麼 東西 藤 さん ぶくく たら

て 笑す へ 押れ もくく びれ こそ。 日本 頭

巾 **新** アシ さん ー 紐の 踏び 目と には ぞ

くく して 解 かん たら ぶ **若** さん ぶくく も

たま ー ぬ の へ も 入り だ あり ても して

李 好 這 一 頂 **新** 頭 巾 **青**

クヤ さん せ ー の へ かん さん ー た **藤** お

き も さん ー が あり かん ー 目 かん ー 巾

ぶく ー さん ー 若 **モ** 之 友 さん

お ぐ み さん ー かん ー あり さん ー あり

さん ー さん ー 若 **ウ** さん ー あり

くく して 後 さん ー かん ー **李** 這 个 頭 巾 甚

麼 價 錢 賤 則 我 也 要 買 **藤** 價 金 三 兩 二

フニ分季 キヤウツゼン價錢賤 フイ藤爲 シエウ什麼季 ホ奉獻大明皇

テイ辛藤 ヒこざらひも ネンと氣と アアノ アめん

どしと ツつと セ若 アアノ アめん

ミミテ ア何 アあり アアノ アめん

あうちの アち アアノ アめん

つるか アアノ アめん

シ声藤 ア阿れと アアノ アめん

いふの アアノ アめん

怎麼 アアノ アめん

金賣 アアノ アめん

ア好 アアノ アめん

今 アアノ アめん

か アアノ アめん

ま アアノ アめん

ア買 アアノ アめん

フニ分季 キヤウツゼン價錢賤 フイ藤爲 シエウ什麼季 ホ奉獻大明皇

テイ辛藤 ヒこざらひも ネンと氣と アアノ アめん

どしと ツつと セ若 アアノ アめん

ミミテ ア何 アあり アアノ アめん

あうちの アち アアノ アめん

つるか アアノ アめん

シ声藤 ア阿れと アアノ アめん

いふの アアノ アめん

怎麼 アアノ アめん

金賣 アアノ アめん

ア好 アアノ アめん

今 アアノ アめん

か アアノ アめん

ま アアノ アめん

ア買 アアノ アめん

利市リイスク 藤フジ アア いろそよろこぶりふ人とちや

あ〜せんきごクニ 梅ウメ はふぞ縁クニ 崑崙クニ 崑崙クニ 奴ヌ

在那裡来吃酒サイナア 藤フジ いろさるらんぞうめ

とまへらんぞらとほとのまをせてさ

がせう青 あんぞ藍 がぶらんぞう入呉

他是手藝タマ 極多專キウ 做幫閑過日チエニツヨハヒヒエニコウ 梅ウメ 何と

とらとらん藤フジ かりりざがきりゆゆ若

あはけのぞえんませぬよんで若 せう

禿禿 ころらがりんくまのせう梅 かり

こぶあ〜ひらよの舞舞 臺たい であせ

か〜隣隣 子とあけてらんあん〜藤フジ それが

よろろろ。せこの三味三味 せんをとらうてよ

こしや新 アイ李 煎煎 個燭燭 心再明亮心再明亮 此此 青青

らうせくのきんとまきれとさ若 ハイハイ あい

らくさすせろ。 崑崙奴 餘外有什麼

客人若太拘禮我要辞了不敢去 亮

サとららでらおさんせんよらとせら

ららとせらとせらとせらとせらとせら

後 崑 那里那里黑地裏是个難走 亮

一 子 子ききき サア 子 かん かん 崑 有

何事情 李 来来喫一杯 崑 感激不盡 藤

ぐらと大きかおとせらとせらとせら

呉 儘着飲得真個大海量 新 とちか

らととせらとせらとせら 若 マア 後 後

かたきみてはうれし お 敬 李 異 様 好 着

藤 你做輕捷 崑 領 肯 最有趣 請 着

之味せん 呉 娘子們 這 技 最 有趣 請 着

一 着 青 せん せん ごん ごん かん かん と と と と 換 換

季 タカ 大 オホ 丁 チヨウ 係 ケイ 得 トク 緊 キン 具 ク 有 ユウ 趣 シュ 得 トク 不 フ 得 トク 藤 フジ 衆 シュウ

位 イ 請 ツク 唱 カク 采 サイ 季 キ 妙 ミョウ 極 キョク 若 ニハ あり

若 ニハ あり あり と 押 オシ され いら いら と お オ で ば バ ざ ザ り ます

と 中 ナカ く 同 ドウ 奉 ホウ け 人 ニヒト あり ごと ト 六 ロク 出 デ 来 ライ ませ

ぬ ヌ め 中 ナカ で ば バ ざ ザ り ば バ ざ ザ と 梅 ウメ こ コ ろ ロ ち チ や ヤ ア ア あ ア ぶ

お オ く て ろ ロ く に る ル ん せ セン ん こと コト 新 ニヒ り リ ち チ お

り リ いら いら と ぬ ヌ く 崑 クワン 阿 ア 阿 ア 疲 ヒ 倦 ケン 藤 フジ 多 タ 勞 ラウ

多 タ 勞 ラウ 兎 ウ ア ア レ レ ん あり ー ー び ビ 人 ニヒト の 鼻 ハナ の 下 シタ と ち

と あり ざ ザ ら ち チ あり ち チ あり 藤 フジ あ ア れ 今 イマ の かり

り リ ざ ザ の ち チ あり 憶 オモ ざ ザ 日 ニヒ 奉 ホウ ざ ザ 何 ナニ ぞ ゾ の 盤 ヒタ と ち

で デ ろ ロ ぐ グ ち チ あり ざ ザ 何 ナニ ぞ ゾ と ち チ あり ち チ あり 鼻 ハナ の 下 シタ ち

ひ ヒ げ ゲ あり ざ ザ ち チ あり 梅 ウメ け ケ ー ー ち チ あり ぬ ヌ く 季 キ 再 サイ 喫 キツ 酒 シュ

具 ク 滿 マン 瀦 ジュ 崑 クワン 没 モク 道 ドウ 理 リ 季 キ 豪 コウ 傑 ケツ 勉 メン 強 キョウ 若 ニハ せん

と ト ん ン ち チ あり ち チ あり ば バ ざ ザ ら ち チ あり ち チ あり 具 ク 使 シ 賭 カ 氣 キ 飲 イン

リヤウハコウニ
了好個海量此等歡喜事難再有此等

新アレきこ移入人ハ鼻くらととらて

者コウふさ何馬ホりよ皆ホハハ藤ハのさけ

とのんごう又おごうとおごらせう青

どんおおごうでござんご入藤はハ目目

の踊とおご入とんとりあがおれより

りうそこれがおひかおがらちやおごり

とんろうとおのうとやももその

みして文句をうりころちのしをああ

ておこいおこい梅こいんご藤お

とせして入せう崑崙奴来做戲文崑

領旨ト李李作麼マ了了藤藤他是一味裡用

心學日本小曲好了了好好了了

味せん味いいいいいいいいいい

が居るりふ **藤** どれ出して入せや **禿** ヲ、
らとらうてくすまご子でおざんと **梅** モウ
目があのり **呉** 什麻 モラヤウ 青 **梅** づもの子で
ツイイソカン びざんと **李** 請 ツイイソカン 看 **藤** かんせうとよ **禿** こ
つらやアワや **梅** お目ふりけ **禿** アイ **新**
それあげて **藤** どんらど **若** たーりころら
わうく **崑** キユイルウサイチエ 兒 ト鼻とつらまるとのり 在這 ほとつりてらてま 裡

梅 ヲヤ **吳** 休 ヒウツヨ 做 セ 没 モツリ 良 リヤ 心 シン 的 テツ 事 **崑** 美 メイ 味 ミ けい
新 けーかち **梅** へくけ人 ハルハル ころら **若** ころら
あま アハ ころら **禿** ころら モウ **禿** モウ
あま アハ ころら **藤** かんせうとよ **梅** かんせうとよ
どおれがりの **李** 請 ツイイソカン 看 **藤** かんせうとよ **禿** こ
体 物 テイモノ 事 ジ 動 ドウ 不 フ 動 ドウ 要 ヤウ 癡 チ 呆 タイ **崑** ゲエくくく

若 これいぢふりきつてさうでいぢらうす

藤 マア齋いぢつれてりくりに青あおせあり

とさすしんせくろ 美うつくせうをたぐくと
嵐あらしの首くびまと終はつをはき物ものを

吳 嘔吐おうと 季き 是醒こゝろさめ 配得はいてとく 緊若きんじやく くらびぬと

終すをのどくひんりけいさうでいぢらう

寸崑 硬碑こうひ 咬不碎くわふさい 新あらた ころらやノ胸むねが

りくくあふく 禿かぶ りきついでりくそ今

のできんできすくへり 藤ふじ あまうりほが

とぎたぐり 嵐あらし とくろりあざけり

すのかりモウりくそ 瘰癧れび うすがよろろ

若 ホニニきつひ多おほひようああきりううよ

なるりま サアくつれてすのりま

せう 崑崙こんろん 命奴めいぬ 太房たぼう 裡罷らひ 崑こん 多兼たけん 厚款こうかん

感謝 不盡ふじん 列位れつゐ 安置あんじ 若しやく サアく一いち 兩りやう 子し 行ぎやう

びやな新イ、エ子まぶちりて流やあま
 りあまてわるかろおろんの湯のみん
 むらせてあまんとととそらとあめ
 さんユおろりてくれろとりひあれ
 藤ソリヤアそれでりかろららんと
 火いをこつおてまてくれや新火うぬ
 とくアイほのふ茶ららんできいせり

り藤ム、それも一たん新クらんできい

せう トえてお事端天の奥の 火をぬすて
さうらり子ありやまをまを 留まする 火い

的ク昆虫キ遊ユ雙ニ飛ヒ鳳ホウ蝶テフ上下カミ不ヒ失シ偶ウ才サイ貌ボウ

相ア携ヒ俱ニ有キ情コト 禿ハ老ロウ若ニさんく何ナニのノ絲イト

おいしんのイ人ニゲクさウれクニヤニツウ

ニヤニツウとト云クあんーーさウ絲イトままさしらぬ

大オききかか撥ハとと何ナニううああううせせんんとと何ナニ

とマア押くくらんあんー藤 アレもむ
つーいのさダリぶのガレニぶのロニジ
ぶのサイナこぶのとつて急めやア
まぐくられめく新 十二めんとうのとおし
あてらんあんーつうそね書行て
あんどおておてらんあんー藤おろく
まてやろくを代りよもあへん心
か

か何のまてひくくられろく新 ろめとく藤
おいんまかくてふとやうてさせ
移へり新 アレららちやアロや藤りやふ
るハ移へおれが何のこハあへんよら
らまへんく移うさねんらんやアあ
移へ新 アレサ モウよりあんーあさん
つがろふアリ ちりくく梅かろあさんく

新 アイ 梅 定 入 ち り り と こ へ 入 り 新 アイ

トまてり屏風の 新 アイ 香 燵 の 之 梅 ころ

と 引 入 る 新 アイ ト新 香 燵 知 て 新 香 燵

をり 後 香 燵 と 梅 梅 マ ヤ け あ つ の 子 後 香 燵

と さら さら 入 り 入 り 何 と 入 り 入 り

後 と 入 り 入 り して 接 接 も 志 入 り 入 り

藤 登 入 ち け ぐ ー 後 と 入 り 入 り

ち り 入 の 梅 子 入 り 入 り 梅 ナゼ エ リ 入 ち

が じ ゃ 子 ぞ ち ゃ も 藤 マ ぐ ち ゃ も ち ゃ け 入

入 り 入 入 梅 ナゼ エ 入 入 の ち じ 中 も 入

入 り ソ レ ア ノ 香 燵 画 踏 香 燵 と 梅 ころ 入

と 入 入 入 入 藤 マ キ ヤ ア ガ レ 画 踏 入

堂 入 ア ノ 梅 じ 志 入 入 入 入 入 入 入

り 入 入 入 入 入 入 入 入 入 入 入 入

叶しき程もあはさぬよとはきく
福くくそれよららほめて **梅**す
あんーそれよららほのまきくハ
なんでも福くあひそつーん
きく切てきめ入やーせんて入あめ
はらぬーがなすがあちまならふよつ
ま合のあんのこらふハ階よりより合

町子 **梅**りーらふもゆあころう **藤**
そんあーあ合 **梅**へいけおれと長
梅ふしてつれ出ーてあまよふといふ
のり **梅**どよひくをかうらふとツリヤア
ぬーが **梅**んらふおご **藤** **梅**んぶらあん
アもうだら女の心 **梅**れ福く **梅**
引よとコレぬーハ **藤** **梅**ながまらふそめさ

梅 アイ糸がらぐるのさうくほめら
てんあんーぬーがぢあゝ寤^つあまの
長棒のさふりもおぢんせうりれた
かうしてそぢ^く方^ろな^まを^まして人の目
顔^うとまのんであま^あ中^ちどやアおぢんせん
りハテ突^つあまそ^まあゝおむらさんとつみ
かりさんのあ^あとまうつ^つかぢして藤^ふかう

とてどかした梅^うはあんーされりあ

トおまのあへ
あうらうあま藤^ふは^は新^{しん}アうちでおぢんす

梅^うそんあうりまおそんとした藤^ふま^まお

てぬらのハあんぞ新^{しん}おつらんがげせんき

の匂^うひとりあがりあんまかう下の^しれん

の茶^ち花^は香^かとおてらうてそらとすりえ

てきんした梅^う夜^や人^にハモウ藤^ふま^までも^もて

いあんすの 新ニ 色シ の乃ノ 男ヲ とかぶらて
かとの上ニ よはしてめあんしニ
おろろりて
天らうりて

季ニ 白ハ 日ツ 地テ 等ニ 到リ 幾キ 時ス 娘ニ 子ツ いくニ 梅ニ 檀ニ 婦ニ

人ニ 那ニ 裡ニ 太ニ 娘ニ 子ツ いくニ 吳ニ 哥ニ いくニ 雙ニ 子ツ いくニ 吳ニ

有ユ 何ホ 貴ク 幹カ 季ニ 梅ニ 檀ニ 那ニ 裡ニ 太ニ 吳ニ 我ニ 也ニ 不ニ 知ニ

季ニ 藤ニ 哥ニ いくニ 托ニ 着ニ 内ニ 白ニ 葛ニ 藤ニ 子ツ いくニ 比ニ 白ニ

ホイ

坂

九州ニ 郭ニ 中ニ 五ニ 人ニ 亦ニ 豪ニ 世ニ 新ニ 変ニ 知ニ 子ツ

の二人ニ を加ニ 七ニ 人ニ 一ニ 座ニ の乃ノ 遠ニ 小ニ

あしけも時ニ 糸ニ とらつての滑ニ 靴ニ 糸ニ

らん其ニ ころりけいニ かうと鳥ニ がたうニ

素ニ の人ニ 乃ノ んニ んニ んニ んニ 存ニ せニ んニ 咲ニ 也ニ

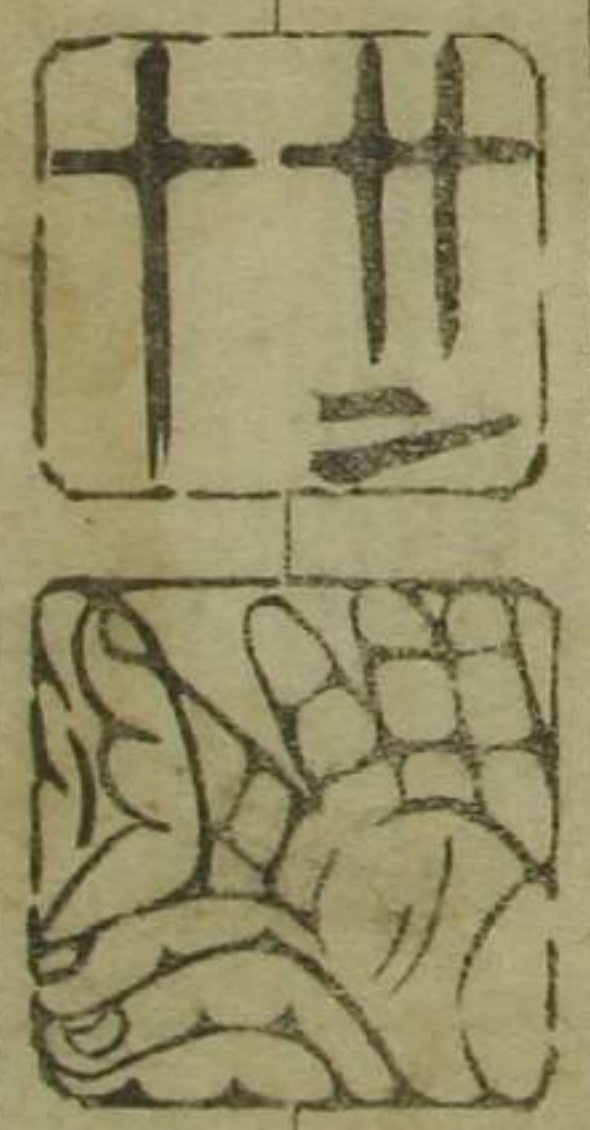
実ニ 乃ノ 合ニ の若ニ 著ニ 羅ニ 羅ニ ハニ 押ニ 糸ニ 乃ノ 新ニ

もろくきつ風土の風俗もさ
 と小筆れも水をはまんる除せん
 かん獨の耳も残りしを中へ丸山
 唯まらくれと押ひひ折子向ひも
 方とふ筆の誤りれハ味さげまも
 何らんりと肩おしとやう言訳や
 ちりんと志りくふはるやを鋸屑も

しんをいよ

唐土乾隆五十
 日本天明五年
 己巳初春

唐来免之和



狂言堂鳥蝶集

全二冊
オ喜ハカクノ
狂言秀逸

ムスコヒヤ

全一冊
オ喜ハカクノ
ムスコヒヤ

狂詩選諷解

全一冊
四方丈生の
狂詩選諷解

新義人合自筆鑑

全一冊
新義人合自筆鑑

味唐珍解

全一冊
夜去の若子
味唐珍解

東海道狂歌名所集六

全一冊
東海道狂歌名所集六

江戸通油田

耕書堂 鳥屋重三郎 梓

